

令和2年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第四中学校第3学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	・文章の展開に即して内容を捉える力。	・ノート指導、作文指導等、「書く」機会を意識的に増やすよう心掛ける。 ・視写課題を通して書く力をさらに高めるとともに、文章を読み解く力を養っていく。 ・多くの文章に触れることができるよう、読書指導を進める。	・視写課題においては分からない語句を調べたり、漢字の読み方を調べたり工夫して学習に取り組む姿勢が見られた。3年生ということもあり、読書の時間が取れなかった生徒が多かった。
数学	・数学的な見方・考え方の問題を解く力の向上 ・図形領域の理解度を上げる。	・「どのように考えたか」「図形の性質などをどのように利用したか」など、言葉で説明する機会を多く持たせるようにする。 ・問題の読み取りを丁寧に指導する。	思考の過程を、数学の用語を用いて説明をさせることで、理解が深まった。また、何を問われているかを意識させることで、思考が整理された。
社会	・日本の地域的な産業の特徴と自然環境との関係 ・歴史の流れをつかみ、時代ごとの特色をつかむ。	・地域的な歴史的背景、自然環境から現在の産業が発達してきた理由を把握、理解させる。 ・出来事の要因や結果を明確に捉えられるよう、補助教材(プリントなど)をさらに工夫する。	・考えるポイントを明確にしたプリントは有効的だった。今後は、ICT機器を活用して、より主体的な取り組みができる工夫を考えたい。
理科	・自分の考えをもち、表現するとともに、他者の考えを受容し、互いの考えを検討して改善しながら、考えを深めていく力。 ・日常生活や社会と、理科の原理や法則を関連付け学習の有用性に気付かせて、学ぶ意欲のさらなる向上を図る。	・実験などにおいて、予想や仮説を立てさせ、他者と比較させる機会を増やす。 ・身近な事象を話題に取り上げて、学習の関心を高め、グループ活動を取り入れ、他者の考えに触れる機会や、自分の考えを修正しながら解決する機会を増やす。	・さまざまな事象を科学的根拠に基づいて考察しようとする姿勢が見られるようになった。 ・グループ活動においても、自分の考えを根拠とともに説明し合う過程で、話し合いに広がりや深まりを得られる活動に発展していくようになった。
音楽	・新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、歌唱を伴う授業の際の制限や、マスク着用での歌唱における、生徒の発声法の確認の不十分さや、生徒の表現意欲低下。 ・教え合うペアワークの実施の際の感染予防策。	・歌唱に関しては、生徒間の距離を保ち歌唱することや、フェイスマスクを着用して歌唱することなどの具体策はあるが、そこまでのリスクを抱えながら取り組むべきではないと考えるため、現在のところ改善するつもりはない。	コロナ禍における学習計画の変更、歌唱や器楽活動などの制限により、新たな授業の組み立て方や、評価の見方が発見できた。今後も感染症予防対策が学習活動に継続して求められる可能性が高いので、新学習指導要領に則り授業を展開していく。特にタブレットを使用した授業を研究してきた。
美術	・休校期間中の課題の添削の過程で、例年より作品のアイデアを丁寧に見直すことができた。予定以上に制作時間が確保され、難易度の高いものに取り組むことができたが、技術が伴わないと完成させるのが難しい。 ・行事も減ってしまい、生活や文化の中で美術が果たす役割を感じ取らせる場が少ない。	・技術面で不安を抱える生徒には、個別指導の場も増やししながら、立体的捉え方の指導を工夫する。 ・卒業に向けた活動の中で、制作してきたものが活用される場を、学年とも協力して増やしていく。	制作の技能面から考えると、制作時間に余裕があり、完成度の高いものにつながった。しかし作品展示の機会がなくなったことにより、互いの作品の鑑賞や意見交換をする場が少ない1年だった。次年度以降は、ICT機器を生かした作品交流などにつなげていきたい。
保健体育	・基本的な技能を用いての応用力が弱い(ゲームでの活用、ボール操作、対人) ・体力全般が低い	・試合の動画などを見せてゲームのイメージをもたせる。 ・補強やトレーニングを毎時間取入れ、体力向上に努める。	・YOUTUBEでさまざまな試合の動画を見させ、動きのコツをつかませた。 ・受験期で運動量も落ちるため、積極的に体育の時間で体を動かす時間をつくってあげることができた。
技術・家庭	(技術) ・時間と自分の力量を把握したうえで作業を進めることができない生徒がいる。 ・安全面の意識(家庭科) ・自らの体験から学習内容を理解し活用したり工夫できるようにする。授業を受ける意欲はある。 ・作品製作意欲はあっても技術が伴わない生徒もいる。	(技術) ・タイマーを使用した。マグネットにより進捗状況表を活用した。 ・保護メガネ着用の徹底。(穴あけ・湯の流し込み) (家庭科) ・自ら考えたり、工夫しようとする時に適切な助言を与えるようにする。 ・生徒間の意見交換や工夫点を考えさせる。	(技術科) ・左記のタイマーを意識しながら授業に参加し、片付けや、手洗い、清掃など動き出す場面が見受けられた。 ・保護メガネの徹底を目指したが、マスクの常時着用により、曇ってしまうことから着用が難しくなった。 (家庭科) 課題の幼児の玩具製作では実習計画をもとに使用目的に沿った個性と工夫ある作品を完成させた。交流会も幼児の成長や保育の大切さを理解
外国語(英語)	・長文を時間内に読み終える速読力を養う。 ・正しい語順で英作文をする能力を養う。	・英文が直読直解(日本語に置き換えずに英語のまま理解する能力)が養えるように指導する。 ・定期的に生徒にライティングをさせて、内容を添削する。	・自分が見たことや読んだことを表現する力がついてきた。 ・物語の説明をするときに、自分の言葉で表現できるとより良い。教科書の丸暗記ではなく、自分で表現を工夫することが今後の課題である。
総合	・与えられた課題については、時間がかかりながらもやり遂げようとする姿勢がみられるが、自ら課題を設定し、追求しようとする力が弱い生徒が多い。 ・集団の中で行動することに安心感を覚える生徒が多く、主体的に考え行動する力を付けていきたい。	・小集団において課題を設定している。課題解決に向けて、話し合いを重ねながら、個々の問題として捉えるよう指導していく。	・学年を複数の集団に割り振り、自分の役割について責任をもって取り組むべく、気持ちをもち活動できた。 ・自身のやるべきことについて捉え、責任をもち、かつ自主的に活動する姿が見られた。

<p>道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的な課題を一人ひとりが自分自身の問題と捉え、向き合うこと。 ・集団の中での他者との関わりにおいて、物事を多面的・多角的に考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を振り返って成長を実感できるような課題を提示する。 ・自分を見つめ、多面的・多角的に考え、自分の生き方について考えるだけでなく、他者を理解することも必要であることを考えさせる授業をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳という単元において、集団の中における自分を見つめなおし、他者への貢献について考えを深めることができた。 ・受験などをテーマとし、他者の気持ちを読み取ったうえで発言について改善につなげることができた。
-----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------